

研究開発成果 実装支援プログラム
平成23年度 報告書

実装活動の名称

「発達障害の子どもと家族への早期支援システムの社会実装」

採択年度 平成21年度

実装機関名 国立精神・神経医療研究センター/精神保健研究所

実装責任者 神尾 陽子

1. 概要

近年、発達障害のある子どもへの育ちについて、早期診断と早期介入が重要であることの認識が広がってきた。わが国では発達障害者支援法（平成17年施行）が発達障害の早期発見と早期支援を掲げ、それを受けて全国自治体での地域支援の取り組みが始まったところである。とはいうものの、そのノウハウは十分に普及しているとは言えず、一部を除いて大部分の自治体では模索中である。本実装活動は、発達障害のある子どもと家族への、実行可能でかつ有用な地域支援の実装を実現するために、すでに全国に普及している乳幼児健診システムに注目し、乳幼児健診ではこれまで重視されていなかったノンバーバルな対人コミュニケーションの発達のチェックを強化することが近道であると考えた。発達障害の人々が最も克服しにくいノンバーバルな対人コミュニケーションの発達を早期に発見し、支援するスキルを、地域の乳幼児の発達にかかわる専門家（保健師や小児科医など）が学べるための、学習ツール（e-learningなど）を開発し、さらにそれらの教材を用いて地域内で知識と経験を共有できるように地域全体を支援することを目指す。期待される成果は、全国どこの地域にあっても、そこに住む発達支援のニーズのある子どもと家族に対して、地域の保健医療にかかわる専門家が早期徴候に気づき、ひとりひとりの子どものアセスメントからそのニーズを的確に把握し、継続的な支援につなげることが可能となるような、地域の支援システム実装、である。

2. 実装活動の具体的内容

平成22年度までに行った自治体の実態とニーズの把握、地域での啓発活動準備、そして今年度も引き続き行ってきた実装協力者（多職種チーム）への継続的な研修を経て、H23年度は発達障害早期支援の研修および事業化について、以下の活動に着手した。

- **E-learning 実装対象の地域と職種の拡大**：現時点の登録 ID の数は、昨年度までの登録数の 2.4 倍増の 197 となった。今年度に新規登録した 116 個の ID のうち、当初は希望者につき 1 個の ID を配布していたが、管理上の都合により、一機関につき（ほとんどが自治体機関）につき 1 個の ID を配布し、期間内で同一 ID を共有してもらった。これは、登録 ID 数と委託業者に支払う e-learning システム利用料は比例するため、当該実装活動への配分額内ですできるだけ多くの人に利用してもらうために ID を効率よく配分する必要がある、このような対応に切り替えた。このことにより、不都合は生じていない。したがって、新たに機関単位で登録したのは 40 か所で、現時点での e-learning 利用者の総数は、457 名となっている。

中間評価時の「協力体制の組める自治体を増やすように」というコメントに応じて、今年度、あらたに協力体制の組める自治体を募集することを目的として、発達障害者支援事業の一環として当部主催で毎年実施している、第6回発達障害早期総合支援研修の最終日（平成23年6月24日）に、「保健師のための「発達障害早期支援の基礎を学ぶ e-learning」モニター募集説明会：社会技術研究開発事業「研究開発成果実装支援プログラム」」を行った。その他、実装責任者（神尾）および実装担当者（稲田）に、発達障害の早期発見・早期支援に関する研修に関して出張講義の依頼があった場合に、e-learningについて情報提供を行うように努めた。その結果、今年度新たに64自治体と12の療育センターなどの専門機関がe-learningを希望し、登録を行った。地域は北

海道、東北、関東、東海、近畿、中国・四国、九州まで全国に及んだ（付録1参照）。上記研修に参加していた鹿児島県保健所職員の受講者は、鹿児島県下の全自治体へ連絡をし、その結果ほぼ全ての自治体がe-learningへ参加することとなった波及効果を示した例もあった。

対象としていた職種は、昨年度までは保健師のみであったが、今年度は、保健師(44.2%)を中心に、心理士(6.1%)、医師(2.5%)、保育士(2.0%)、言語聴覚士(1.0%)、看護師(1.0%)、福祉士(1.0%)、作業療法士(0.5%)など多様な職種に拡大した。

- **実装地域での研修プログラムについてのアンケート調査：**(1)e-learningの利用者（ここではID単位）197IDに対し、e-learning講座受講後に、①受講した感想、②改善点、③あらたに望むコンテンツについて、自由記述による回答を求めた（付録2を参照）。
 - ①**受講後の感想：**教材の内容について、映像で説明を補足している点が最も高く評価され、専門知識だけでなく、実際の映像が理解を促進したと言える。「社会的行動の発達の見方や支援のポイントがよくわかった」、「親への支援体制や子どもへの支援の環境設定について理解でき良かった」など受講者個人の理解が深まった点のほか、「職場内で共通認識をもつことに役だった」など地域での理解共有を促進するのに貢献したことが窺えた。またe-learningによる研修システムが狙いとする簡便さ、つまり自分の都合のいい時間や場所で学べる点が評価されており、多忙な業務の間に学習できるという点も評価された。受講後に設定した達成度確認問題についても、重要なポイントの再確認につながるという意見が聞かれた。
 - ②**改善点：**「講義スライドがダウンロードできるようにしてほしい」、「講義のスライドだけではなく、講義の説明も画面で読めるようにしてほしい」、「講義内容への質問に対応してほしい」、「他の自治体・施設の受講者との意見交換の場が欲しい」、など、さらなる支援を望む意見が多く聞かれた。23年度に新たにコンテンツを作成した際に、これらの改善点を可能な範囲で反映させた。
 - ③**あらたに望むコンテンツ：**最もニーズが高かったのは、親に対して子どもの発達特性をどう伝えていくのかということに関するもの、家庭での子どもへの関わり方について親へどう助言するかに関するもの、親からの聞き取りを含むアセスメントの方法に関するもの、などであった。早期発見と支援はセットで行うため、具体的な支援についての研修が強く求められており、平成23年度に作成した新コンテンツは、これらの要望に応える内容とした。
- **実装対象のニーズに応じた系統的研修プログラムの開発：**昨年度のアンケートおよび上記のアンケート結果を踏まえて、自治体など早期発見と支援の現場のニーズを反映させたコンテンツを開発した（付録3）。具体的には、保健師が親に対して子どもの発達特性を伝える際に参考になるコンテンツ（自閉症スペクトラム児早期発見後：子どもの特徴の親への伝え方）、また保健師が親への助言の際に使用でき、親教育用に手渡し可能なコンテンツ（①子どもとの遊びを楽しむコツ、②環境づくりのコツ、③声かけのコツ、④子どもの意欲を育むコツ）を追加した。さらに小児科医向けのコンテンツ（自閉症スペクトラム早期発見の必要性について、自閉症スペクトラム児のアセスメント）を作成した。昨年度までのコンテンツは、職種を問わずに必要な共通の内容であったので、平成23年度は、職種や場面に特化したコンテンツを増やし、より実践的なスキルアップを狙った。

- **自治体内の独自の研修活動への支援**:各自治体によって事情が異なることが多いので、地域独自に発達障害早期支援活動がすすめられていくのが望ましく、前述の研修教材を活用し、さらに各自治体が追加作成するなどして地域内の独自な研修活動を促し、支援しているところである。その使用実態を確認することを目的として、平成 23 年 1 月に、今年度新たに登録した 40 自治体機関・専門機関について、e-learning の受講とその利用形態について調べた(回答率 92.5%)。59.5%が職場内の一斉研修として e-learning を受講、51.4%が個人で受講していた。うち 3 自治体機関・施設が一斉研修での受講と個人での受講を併用していた。また 6 自治体機関・施設は、他機関から依頼されて e-learning 教材を用いて出張講義を行っており、本実装活動が地域内のリーダー育成にも貢献していることが分かった。さらに一部の自治体では早期支援を行うに当たり、親向けに独自にリーフレットを作成しており、こうした支援活動へも助言を通して後方支援を行った。今後は、これら各地域が独自に作成したリーフレットを web 上でライブラリー化し(許可が得られたら)、他の後発地域が早期支援に取り組む際に利用できるように整備する予定である。
- **小児科医の意識の推進への取り組み**:小児科医対象の研修プログラムの開発や支援のあり方については、地域の(実装責任者の勤務地を含む東京都北多摩北部地域)の中核的な小児科プライマリ医と拠点病院の小児科医(小児医療推進協議会すこやか発達部会;平成 22 年度末に協議会の下部組織としてこの部会が立ち上がり、実装責任者の神尾も委員として参加することとなった)と検討を重ね、e-learning を含む教材開発に取り組んできたところである。地域医療に発達障害児への早期支援を位置づけ、さらに教育、保健、福祉の一貫として地域での発達障害支援を推進するために、平成 24 年度に地区医師会(北多摩医師会)の主催する学術集会で、中心テーマとして企画することが決定した。実装責任者の神尾が講演を行い、小児医療、保健、行政、教育の各領域からのシンポジストによるディスカッションを中心とする企画を進めたところである(H24 年 6 月 30 日開催予定)。
- **自治体による地域内早期支援システム実装の事業化**:当該プログラムの主たる対象は乳幼児健診の実施母体である自治体であることから、当該実装支援活動によって導入に至った地域での早期支援のシステムが、自治体で完全事業化されることが理想的である。平成 22 年度に 2 自治体(京都府舞鶴市、東京都西東京市)で完全事業化されたのに続いて、平成 23 年度は、5 自治体(愛媛県新居浜市、長野県諏訪管内、岐阜県本巣市、千葉県習志野市、滋賀県近江八幡市)において新たに完全事業化が実現した。計 7 自治体において、本実装支援活動の結果、発達障害早期支援のあらたな事業化がなされたことになる。

事業化された新居浜市の健診スタッフに対しては、スタッフの支援の質のモニターと、さらにスキルアップを目指して、テレビ会議や電話、メールなどを通して、個々のケースの面接実施から、記録のとり方、整理法、ケースの見立て、支援プラン作成、家族へのフィードバック法など総合的にスーパーバイズを行った。

3. 理解普及のための活動とその成果

実装活動の受益者や、受益者の関与者等ステークホルダーを明確化して、記述して下さい。該当しない項目は適宜削除して下さい。

(1) 展示会への出展等

なし

(2) 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
2011.4.26	発達障害の早期支援の意義と自治体の役割について。発達支援マネージャー育成研修。	埼玉県大宮市（福祉部福祉政策課主催）	県の施策として育成する発達支援マネージャー対象、参加者200名、自閉症の早期発見と早期支援についての理解を深める。	埼玉県、地域住民	県の発達障害対策の推進に貢献。
2011.5.25	自閉症の診断と評価。平成23年度第1期特別支援教育専門研修。自閉症・情緒、発達障害教育専修プログラム。	神奈川県横須賀市（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所主催）	全国の教師対象、参加者100名、発達障害児の早期から継続した支援の必要性を理解してもらおう。	学校、小中学校児童とその家族	特別支援教育と保健・医療の連携強化に貢献。
2011.5.29	乳幼児期の発達障害への気づきと支援—ASD（自閉症スペクトラム障害）の子どもたちの早期行動特徴について—。	日本臨床発達心理士会千葉支部専門職公開研修会。千葉	臨床発達心理士および発達障害の早期支援に関わる専門家（保健師、保育士など）対象、参加者90名	臨床発達心理士、認定運営機関	心理士の臨床活動の発達の支援の側面について、スキルアップが期待される。相談者である親の育児ストレスが軽減され、子への適切な対応が促される。
2011.6.22	自閉症スペクトラム児の早期診断とその意義：ライフステージの観点から。平成23年度精神保健に関する技術研修。第6回発達障害早期総合支援研修。	東京（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・思春期精神保健研究部主催）	発達障害の早期支援に関わる専門家（保健師、小児科医など）対象、参加者70名	保健師、小児科医、乳幼児健診を受診する児と家族	ニーズのある子どもたちが早期に支援につながり、その後の発達支援が促進される。
2010.6.22	地域における自閉症スペクトラムの	同上	同上	同上	同上

	早期発見・早期支援. 平成23年度精神保健に関する技術研修. 第6回発達障害早期総合支援研修.				
2011.6.23	乳幼児の対人コミュニケーション行動アセスメント実習Ⅰ. 第6回発達障害早期総合支援研修	同上	同上	同上	ニーズのある子どもたちを直接観察によってアセスメントする技法を学び、見立てと支援に役立てることができる
2011.7.8.	発達障害の早期発見の評価尺度について	長野県松本市(長野県松本保健所管内保健師研修会)	保健師対象、約30名	自治体保健師、乳幼児健診を受診する児と家族	ニーズのある子どもたちが早期に支援につながり、その後の発達支援が促進される。
2011.7.22.	発達に課題のある子どもの早期発見・早期支援セミナー(1)	埼玉県浦和市(埼玉保健師研修会)	保健師対象、約100名	自治体保健師、乳幼児健診を受診する児と家族	ニーズのある子どもたちが早期に支援につながり、その後の発達支援が促進される。
2011.7.28	保護者との連携を図りながらの支援について	宮城県仙台市(宮城県特別支援教育センター障害幼児教育研修会)	保育士対象、約100名	保育士、保育園、幼稚園に通所する児と家族	ニーズのある子どもたちが早期に支援につながり、その後の発達支援が促進される。
2011.9.12.	発達に課題のある子どもの早期発見・早期支援セミナー(2)	埼玉県浦和市(保健師研修会)	保健師および保育士など対象、約200名	自治体保健師、保育士、保育園、幼稚園に通所する児と家族	ニーズのある子どもたちのニーズを絞り込むための2次スクリーニングの技法を学ぶことによって、その後の発達評価面接の要否

					を判断でき、適切に支援につなげられる
2011.11.20	自閉症・発達障がい児の早期発見と支援	鳥取県米子市：子どもの心の診療関係者研修会、子どもの心の拠点病院推進室（鳥取大学医学部附属病院）	保健師および保育士、心理士、教師など対象、約200名	自治体保健師、保育士、保育園、幼稚園に通所する児と家族	発達支援のスキルアップが期待される。地域内連携が強化される。相談者である親の育児ストレスが軽減され、子への適切な対応が促される。
2011.11.30	発達に課題のある子どもの早期発見・早期支援セミナー（3）	埼玉県浦和市（埼玉保健師研修会）	保健師対象、約50名	自治体保健師、乳幼児健診を受診する児と家族	ニーズのある子どもたちを直接観察によってアセスメントする技法を学び、見立てと支援に役立てることができる
2012.1.14.	自閉症スペクトラム児の早期診断とその意義：ライフステージの観点から	埼玉県浦和市（平成23年度埼玉小児保健セミナー、埼玉県小児保健協会主催）	保健師および保育士、心理士、小児科医、教師など対象、約300名	自治体保健師、保育士、保育園、幼稚園に通所する児と家族	発達支援のスキルアップが期待される。地域内連携が強化される。相談者である親の育児ストレスが軽減され、子への適切な対応が促される。
2012.3.26.	発達障害児の早期発見・早期支援	福島県いわき市（保健師研修会）	保健師対象、約30名	自治体保健師、乳幼児健診を受診する児と家族	ニーズのある子どもたちが早期に支援につながり、その後の発達が改善される。

概要欄に参加人数、目的や内容などを記入して下さい。

(3) 新聞報道、TV放映、ラジオ報道、雑誌掲載等

なし

(4) 論文発表 (国内誌 5 件、国際誌 1 件)

著者、発表論文名、掲載誌(誌名、巻、号、発行年)等を記載してください
その際、本活動の成果として対外的に言明できるものをリストアップして下さい。

1. 神尾陽子(2011): カレント・トピックス 発達障害対策はどのようにすすめられているか. 精神科治療学, 26(1), 113-116.
2. Kamio, Y., Tobimatsu, S., & Fukui, H. (2011): Developmental disorders. In J. Decety, J. Cacioppo (eds.), The Oxford Handbook of Social Neuroscience (Oxford Library of Psychology), pp.848-858. Oxford, Oxford University Press.
3. 神尾陽子:子どものこころの発達. からだの科学: 子どもの発育・発達と病気. pp.8-11, 五十嵐隆編. 東京, 日本評論社.
4. 神尾陽子, 岩宮恵子, 後野文雄. 第14回カレント教育講座シンポジウム抄録「心の教育」を考える: 対応に困る子どもたちへの多面的理解と関わり. 臨床教育実践研究センター紀要, 15, 2012.
5. 稲田尚子, 黒田美保, 小山智典, 宇野洋太, 井口英子, 神尾陽子 (印刷中): 日本語版反復的行動尺度修正版 (RBS-R) の信頼性・妥当性に関する検討. 発達心理学研究.
6. 稲田尚子, 神尾陽子 (2012): 自閉症スペクトラム幼児に対する早期支援の有効性に対する客観的評価: 成果と考察. 乳幼児医学・心理学研究, 特集「自閉症スペクトラム障害の早期療育への前方視的研究」, 20, (2), 73-81.

(5) WEBサイトによる情報公開

サイト名 児童・思春期精神保健研究部

・ URL <http://www.ncnp.go.jp/nimh/jidou/index.html>

・ 内容 実装プログラムの紹介とJST, RESTEXの実装紹介ページへのリンクをしている。

その他、実装対象に限定して、以下を発信している。

【E-learningシステム】

・ サイト名 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

・ URL <https://www.nlsp.net/nimh/>

・ 実施手続き

研修受講希望者は、管理者に対して事前登録を申し入れ、ログインIDとパスワードの発行を受ける。

受講者は上記URLからログインIDとパスワードを入力して、イーラーニングサイトへ入る。受講者は講座一覧にあるコンテンツを指定し、視聴する。

視聴後、到達度確認のために確認問題を行う。全問正解すると合格となる。

管理者は、全ての受講者のコンテンツ視聴度合いや到達度確認問題の達成度を見ることが可能である。

システムはパナソニックラーニングシステムズ株式会社が提供しているイーラーニングシステムを用いているため、セキュリティに関する心配は無く、自前でサーバーとシステム構築

するよりも安価で提供することが可能である。

(6) 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

- ② 招待講演 （国内会議 2 件、国際会議 0 件）
- ② 口頭講演 （国内会議 2 件、国際会議 2 件）
- ③ ポスター発表 （国内会議 0 件、国際会議 1 件）

招待講演

1. 神尾陽子: (教育講演) 自閉症スペクトラムの早期診断と早期介入 - 最近の国内外の動向. 第 53 回日本小児神経学会総会, 横浜, 2011.5.27.
2. 神尾陽子: (教育講演) 子どもから大人への精神病理の連続性と不連続性: よりよい長期予後を目指して. 第 3 回日本小児心身医学会関東甲信越地方会, 東京, 2012.3.4.

口頭講演

3. Kamio, Y. (2011). Early detection of autism spectrum disorder at 18 months. Scientific Panels: International applications of the Modified Checklist for Autism in Toddlers (M-CHAT) in level 1 screening. The 10th International Meeting for Autism Research. May 13, San Diego.
4. Kamio, Y: Early diagnosis of ASD in toddlers and school children: Findings from community studies and national survey in Japan. Exploring Autism Research Collaboration between Japan and the United States. Joint Academic Conference on Autism Spectrum Disorders. Tokyo, 2011.12.3.
5. 神尾陽子: 精神医学における発達障害再考: 児童期から成人期へのさまざまな発達軌跡. 第 107 回日本精神神経学会学術総会, 東京, 2011.10.27.
6. 神尾陽子: 広汎性発達障害のライフステージに応じた介入と予防に向けて: 疫学研究から. シンポジウム「精神医学における発達障害再考: 児童期から成人期へのさまざまな発達軌跡」 第 107 回日本精神神経学会学術総会, 東京, 2011.10.27. 神尾陽子: 小・中学校におけるエビデンスにもとづく学校精神保健の課題. シンポジウム「教育における精神保健ネットワークの構築を目指して」 第 107 回日本精神神経学会学術総会, 東京, 2011.10.27.

ポスター発表

7. Inada N, Kamio Y: The application of the M-CHAT to the Japanese health check-up system. Exploring Autism Research Collaboration between Japan and the United States. Joint Academic Conference on Autism Spectrum Disorders. Tokyo, 2011.12.2.

(7) 特許出願

なし

(8) その他特記事項

付録1 参加者・施設リスト

	自治体リスト
1	市原市保健センター
2	丸亀市役所 健康福祉部健康課
3	県央保健所 総務保健部健康増進グループ
4	大垣市保健センター
5	松江市健康福祉部健康まちづくり課・発達健康相談担当
6	雲南市健康福祉部健康推進課・発達クリニック担当
7	岡山市こども企画課
8	岡山市 北区中央保健センター
9	岡山市 北区北保健センター
10	岡山市 中区保健センター
11	岡山市 東区保健センター
12	岡山市 南区西保健センター
13	岡山市 南区南保健センター
14	岡山市 保健所 健康づくり課 母子歯科保健係
15	大町市 民生部子育て支援課 子育て支援係
16	日野市役所 健康福祉部 発達支援室
17	相模原市緑こども家庭相談課 療育相談班
18	相模原市中央こども家庭相談課 療育相談班
19	相模原市南こども家庭相談課 療育相談班
20	藤沢市役所 こども健康課 南保健センター
21	藤沢市役所 こども健康課 北保健センター
22	富山県高岡厚生センター
23	鹿児島県長島町 保健衛生課
24	鹿児島県肝付町 健康増進課
25	屋久島町 健康増進課
26	鴻巣市 健康づくり課 吹上保健センター
27	福木市役所 福祉部 障害福祉課
28	西条市役所 健康増進課 西条市保健センター
29	島根県大田市 健康保険年金課
30	鹿児島県子ども福祉課
31	志布志市 健康課
32	島根県県央保健所
33	川本町 健康福祉課
34	色南町 保健課
35	日置市 健康保険課
36	いちき串木野市 健康増進課
37	天城町 保健福祉課
38	与論町 町民福祉課 保健センター
39	三郷町 住民福祉課
40	指宿市 健康増進課
41	大崎町 保健福祉課
42	七飯町 保健課
43	船橋市健康部健康増進課(非常勤)
44	南九州市 健康増進課
45	十島村 住民課
46	鹿屋市 健康増進課
47	奄美市 健康増進課
48	和泊町 保健福祉課
49	宇検村 健康福祉課
50	喜界町 保健福祉課
51	出水市 保健センター
52	東松山保健センター
53	枕崎市 枕崎保健センター
54	市川市こども発達センター
55	南さつま市 保健課健康増進係
56	始良市 健康増進課健康増進係
57	薩摩川内市 市民健康課
58	伊佐市 健康増進課
59	鳩山町 健康福祉課 保健センター 管理予防担当
60	板橋区 赤塚健康福祉センター
61	千葉県市川市南行徳保健センター
62	霧島市 健康増進課 すこやか保健センター
63	鹿児島市中央保健所
64	いわき市保健センター

e-learning全登録者（管理者3名除く）

付録2 アンケート結果

以下は、上記合計118名の回答より、まとめた。（複数回答あり）

【設問2】今回受講して、良い点（E-learningについて、本講座について、その他）をご記入願います。

- 映像を見ながら確認できる・・・55名
- 社会的行動の発達のみかたや支援のポイントがよくわかった・・・37名
- 実践の確認、振り返りできる・・・17名
- 自分の都合のいい時間、場所で学べる・・・11名
- 親への支援体制も視野にいれて考えることができた・・・10名
- 各章まとまりがあり、わかりやすかった・・・9名
- M-CHATの理解が深まった・・・5名
- 環境設定等が理解できた（声かけ含む）・・・4名
- テストで再確認できた・・・3名

【設問3】今回受講して、改善すべき点（E-learningについて、本講座について、その他）をご記入願います。

- 実際に観察を行っている様子があるとわかりやすい・・・10名
- BGMが大きく、本文が聞き取りにくかった・・・9名
- 内容についての資料がダウンロードできるといいなと思った・・・7名
- 一時停止機能があると、途中で内容をかきとめられる・・・6名
- 親御さんが相談や支援の必要性を感じていない場合のフォローについて、どうされてるのか伺いたい・・・6名
- 画面上に説明する文章があるとわかりやすい・・・3名
- 内容についての質問に対応してほしい・・・3名
- 子どもとのやりとり場面が見られなかったことが残念・・・2名
- M-CHAT陽性・陰性を判断する項目数の数え方を具体的に提示してほしい・・・2名
- 章によってまとめ方が異なることがあったので、流れは同じようにしてほしい。

【設問4】今後コンテンツを充実させていく際に、是非学んでみたい内容などがありましたらご記入ください。

- 親への具体的な説明・支援のポイント・・・15名
- 親からの情報等のききとりを含めた総合的なアセスメントについて・・・10名
- 療育を含むフォローアップの仕方の具体的事例について・・・9名
- 実際の自閉症スペクトラムのお子さんの映像がみたい・・・8名
- 発達障害の種類別にみられる行動特性について・・・8名
- 3歳児健診、5歳児健診での行動観察・支援のポイント・・・6名
- 子どもへの効果の実態が見れるような映像があればいい・・・3名
- ロールプレイ・・・3名

- ことばの遅れの相談が多いので、指示理解や人への働きかけの視点との絡み・・・2名
- 乳幼児の発達について・・・2名
- PARSについて
- ペアレントトレーニング
- ソーシャルスキルトレーニング
- 具体的な保健指導
- 虐待との関係について
- 感覚統合アプローチについて
- 視覚支援の実際

【設問5】 その他、ご意見、ご感想をお願いします。

- とても有益な講座でした・・・6名
- 保護者への説明の留意点など、日々悩んでいる現場にとって非常に参考になった・・・3名
- 自分の都合のよい時間に受講でき、よかった・・・2名
- さらにプログラムの内容が充実すること・・・2名
- 親への支援の仕方がとても役に立った
- 共通理解・認識できるよい機会だった
- あまり理解できていないことがよくわかった
- 自分の考え方や方向性を学び、考える機会になった
- 以前より、相談における子どもの見立てが難しいと感じる（現場で）
- テキストもあるといい
- 受講者同士の意見交換の場もあったら
- 市内の保育園の先生方向けの研修で使用し、健診と保育園との連携にも有効

付録3

e-learning 新コンテンツ概要（扉ページのみ）

【保健師対象】

自閉症スペクトラム児早期発見後：子どもの特徴の親への伝え方
親に子どものことをもっと理解してもらうために

(1) 子どもの全体像を伝える

全体像の整理のポイント：

- ✓全般的な発達水準
- ✓対人コミュニケーション行動
- ✓こだわり
- ✓遊び方
- ✓その他の特徴（多動、不器用、感覚過敏など）
- ✓性格・気質

- (2) 今後の対応で子どもの発達が伸びる可能性を伝える
- (3) 今後の対応の工夫の仕方を伝える
- (4) 定期的なアセスメントの必要性を伝える
- (5) 親が疑問に思っていることがないか尋ねる

子どもの特徴の親への伝え方の例①発達の遅れのある2歳の自閉症の場合
子どもの特徴の親への伝え方の例①発達の遅れのない2歳の自閉症の場合

【保護者対象】

家庭での子どもへの関わり方のコツシリーズ

はじめに

①子どもとの遊びを楽しむコツ

子どもが好きな遊びの種類を知り、その遊びを一緒にやって楽しみましょう

- (1) 1～2歳の子どもと一緒にできる遊びの種類を知りましょう
- (2) 我が子の好きな遊びの種類を見極めましょう
- (3) 我が子の好きな遊びのヴァリエーションを増やしましょう

②環境づくりのコツ

- (1) 前もって、部屋づくりを工夫しましょう
 - 触ってほしくないものは、見せない・手が届かないようにする
 - 触ってほしくないものを置く場所を決める
 - 遊びスペースを作る
- (2) 別の行動に置き換えましょう
 - 別のものに置き換える
 - 別の活動に置き換える
 - より望ましい行動に置き換える

③声かけのコツ

- (1) お子さんの注意をしっかりとひいてから声かけしましょう
- (2) 目に見える手がかりを使いましょう
 - 実物や写真を見せる
 - 身ぶりや見本を見せる
- (3) 言葉を選んで声かけしましょう
 - ポジティブな表現で
 - 具体的に
 - 短く

④子どもの意欲を育むコツ

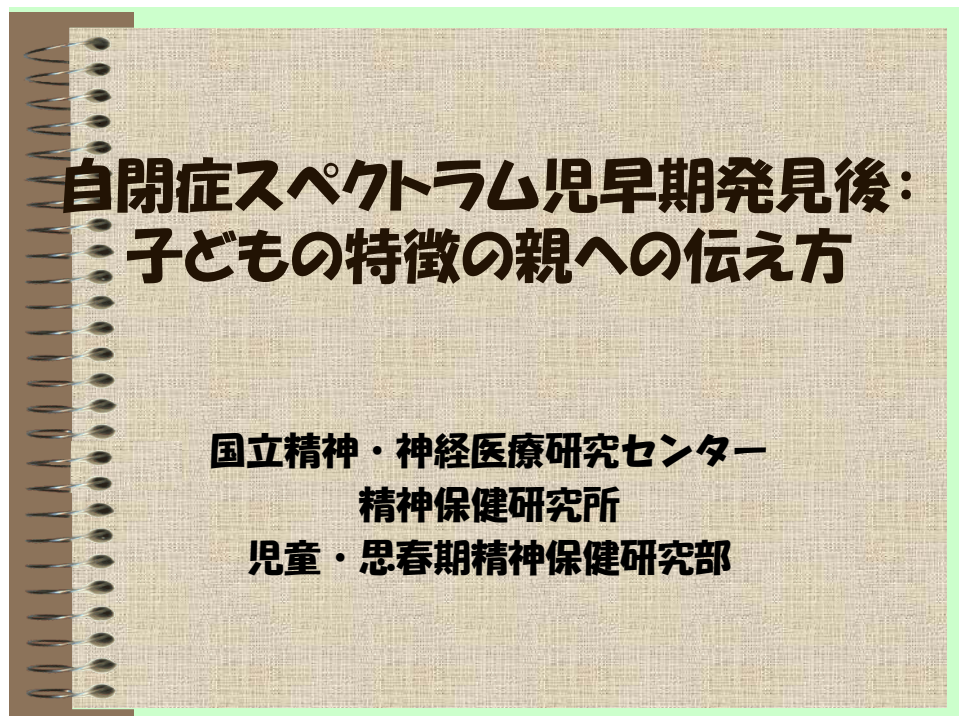
- (1) お子さんが何をしたいのか、どんなことができるのかを考えましょう
- (2) 親が期待することは何かを考えましょう
- (3) 親の期待も取り入れ、お子さんができるように工夫をする
 - できていることをうまく使いましょう
 - 子どもができるように、お膳立てしましょう

- 少し手伝いましょう
(4) お子さんができたら、ほめましょう

【小児科医対象】

自閉症スペクトラム早期発見の必要性について
自閉症スペクトラム児の早期発見とは
自閉症スペクトラム児の早期発見の意義
小児科医にできること
乳幼児健診の実際
1歳6か月で分かること
自閉症スペクトラムのスクリーニング

保健師向けコンテンツ



子どもの特徴の親への伝え方の例①
～発達の遅れのある2歳の自閉症の場合～

国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所
児童・思春期精神保健研究部

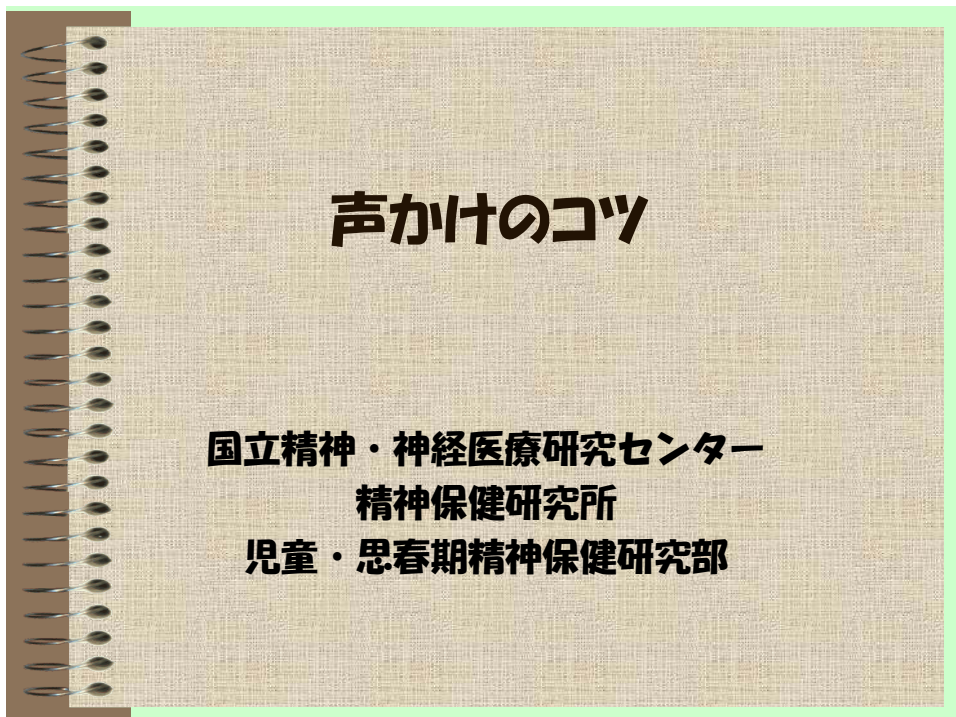
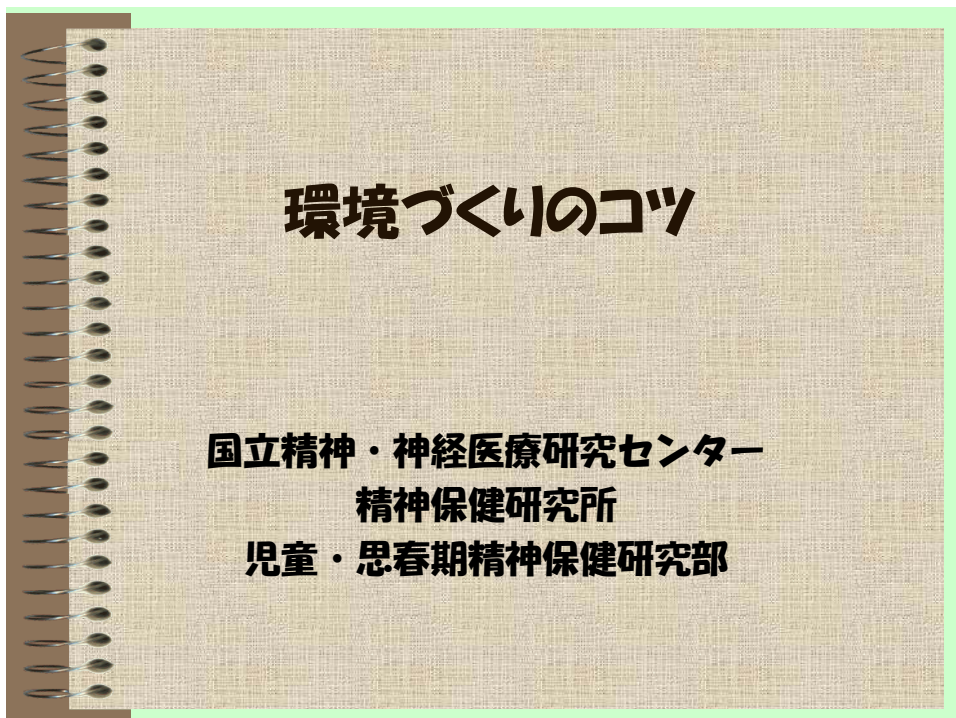
子どもの特徴の親への伝え方の例①
～発達の遅れのない2歳の自閉症の場合～

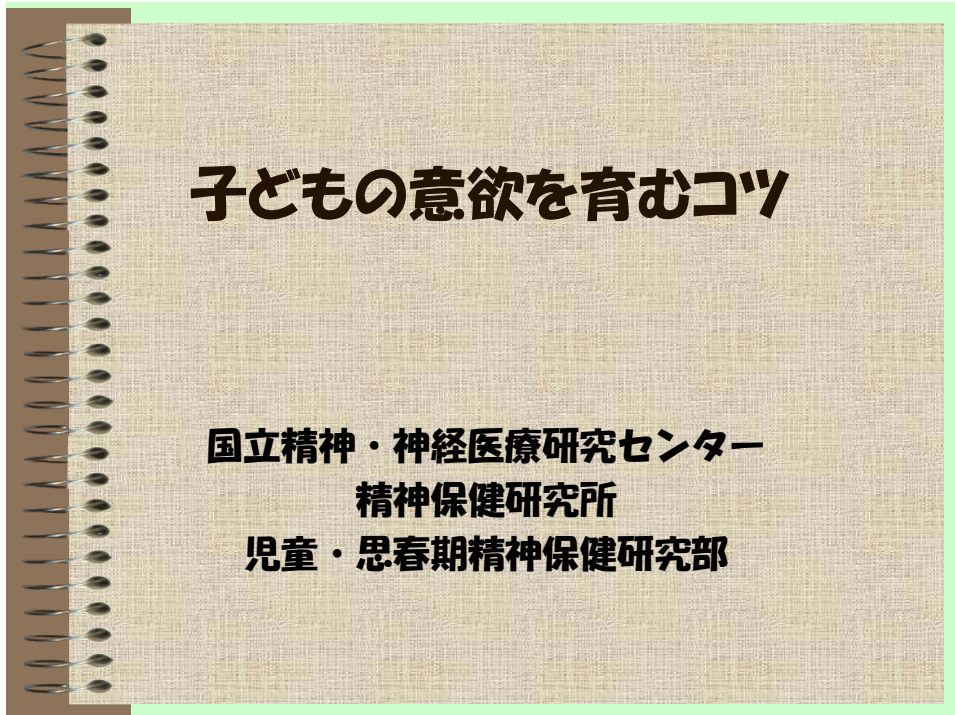
国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所
児童・思春期精神保健研究部

保護者向けコンテンツ
配布用

子どもとの遊びを楽しむコツ

国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所
児童・思春期精神保健研究部





小児科医向けコンテンツ

